

「女性リーダーと議員とのカフェ・ド・ギカイ」のテーマに対する参加者の意見と議会の回答

テーマ2：女性の政治参加をどう考えるか

(※) 参加者の意見・議会の回答は、簡略化して記載

【参加者の意見】

団体名	役職	氏名	参加者の意見(※)
高根沢町女性団体 連絡協議会	会長	ナカザワ ヨシコ 仲澤 佳子	結論から言うと賛成。ただし、「男女平等」と言っても、夫婦がそれぞれ持つ特性はとても重要。無理に振りかざさず、女性特有の目線・優しさを失わず、自己主張をしすぎない代弁者であってほしい。当然、家族・周囲の協力がなければ、これらは皆無。男性以上の「壁」を女性は飛び越えなければならない。女性側にもある偏見を互いに柔軟にしていく事で、ジェンダー平等に、より近づけるのではと思う。そんな女性政治家がもっとたくさん誕生できるのを節に希望する。(楽しみ)
高根沢町 交通安全協会女性部	会長	タムラ ケイコ 田村 啓子	大いに賛成。 町の議員数の中で、女性1名というのは少なすぎると思う。
	副会長	カマクサ カズエ 鎌草 一枝	
高根沢町女性防火 クラブ	委員長	ウツカ チョ 宇塚 千代	先日の埼玉県条例案取り下げのニュースを見て「女性も政治に関心を持ち、身近に政治があると考えた時代になった。」と思った。 女性は、子育て、家事、職業、時には介護と多忙。そこへ政治への関心と参加の入りスペースが残っているのか。職業は、女性にとって社会へ開いた窓で大切。
	副委員長	コバヤシ ヨウコ 小林 陽子	
高根沢町更生保護 女性会	会長	ナマイ カヨコ 生井 佳世子	① 「本町では、なぜ女性議員が育たないのか。」を聞きたい。 ② 男性とは違った視点で、町を考えられるのではないか。 ③ 男性議員は、女性の政治参加をどう思っているのか。
	副会長	イシツカ ケイコ 石塚 啓子	
高根沢町食生活改善 推進員協議会	会長	ムラカミ かつい 村上 かつい	① 地域の推薦などが、女性にもあれば、もっと多くの人が参加できるのではないかと思う。 ② 役場の女性管理職が現在より多くなれば、今よりも多くの考え方などが得る事ができ、女性も色々な事が良くなるのではないかと思う。
	副会長	イイヤマ ケイコ 飯山 啓子	
J A しおのや 高根沢地区女性会	会長	コボリ エイコ 小堀 栄子	女性、男性との区別なく、多くの意見や考え方を聞くという事には、いろいろな人が参加した方がいいのでは。男性の政治参加、女性の政治参加、どちらも同じなのではないか。
	副会長	イシツカ ケイコ 石塚 啓子	
高根沢町ひとり親 家庭福祉会	会長	クリハシ サチコ 栗橋 幸子	女性の目線での政治は必要。また、女性の能力が低いとは思わない。(日本の女性は、高等教育を受けている割合が世界でトップクラス。)にもかかわらず、政治、社会活動においても参加の割合が低いのは、男性の家事・育児に対する意識が低く、家事能力も低いから。(勉強していればよい。仕事をしていれば良い。他は?) その点が変わらない限り、投票という間接的な政治参加はあっても、女性にとって、結婚・出産はリスクが多く、少子化の一因でもある。
高根沢町商工会 女性部	女性部長	コボリ コ 小堀 トキ子	どんどん出して欲しいと思うが、家族の理解が得られるかが問題。

【議会の回答】

議員名	議会の回答（※）
阿久津 信男	<p>女性の政治参加に対し、心から期待している。</p> <p>過日、日光市で「G7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合記念シンポジウム」が開催され、ジェンダー社会性差格差解消社会実現のため運動が展開されている。</p> <p>こういったチャンス社会において平等社会活躍推進の加速が期待されている。</p> <p>問題は、こういった環境でありながらも、その政治に着目を持って自主的に参加する意欲がなくては、伸展性はないかと思う。</p> <p>参考だが、今月、私の知人が大田原市議会に女性として出馬する。生まれは鹿沼で、誰一人知人がいないのにもかかわらず、あえて今回の市議選に立候補する。</p> <p>その根本は、PTA活動中に市のPTA会長、県のPTA副会長まで進み、その中で痛感した「家庭教育や社会教育の問題点」または「社会貢献」を考えてのこと。</p> <p>一番のきっかけは、「自分が誰かを当てにするよりも、まず自主性を持って取り組む。」また、「奉仕性・協調性が一番大切で、自分の目線に合ったプランを立てて、そこに到達するために日夜努力する。」と大変素晴らしいことを言っていた。</p> <p>仲澤会長は、大変価値のある素晴らしい組織活動を展開され、即戦力のある方と感じている。私たちも大変心強く思っている。女性のリーダーとして、町政に参加されることを心から期待する。</p>
野中 昭一	<p>私の妻も女性防火クラブの会長をしていた時があるが、その当時、私が思っていたことは、「活動内容が時代遅れではないか」ということ。</p> <p>今、家に「かまど」がある人なんていない。時代が進んでいるので、活動内容も変えていかないと意味がない。</p> <p>女性も男性とだいたい同じ数いるので、女性議員が出てくるのも大変結構だと思う。</p> <p>しかしながら、女性が立候補するのは、なかなか難しいと思う。仕事をしながら、家事もあるし、旦那もいるし。その環境で出馬するのは、よほど勇気のある女性だなと思う。</p> <p>細かい意見を聴くのは、女性が向いていると思うので、女性の議員が増えるのは、とても良いこと。</p> <p>待っていては、議員はなれない。自分が議員になりたいのなら、自分からどんどん積極的に立候補して欲しい。我々は、女性を潰すことはないの安心して出てほしい。一緒に女性とやっていきたい。</p> <p>配偶者とよく相談して、理解を得た上で、円満に立候補して欲しい。</p> <p>女性が、男を差し置いて出てくるのは、近所からうるさく言われたりする。外国と違って、まだまだ、日本は、そういうところ。</p> <p>問題・課題は、地元の議員に相談して、解決しなければ、自分が立候補する方向がよいと思う。</p>
森 弘子	<p>女性として議員活動ができるのは、連れ合いの応援のおかげ。「世の中を一緒に良くしていこう」という同じ精神のもとで活動をしている。一番の応援は、家族。家族の理解があつてこそ、女性が、この場に出られる。</p> <p>皆さんの場合は、それぞれの団体活動の中での課題現状、または、日々の暮らしの中での医療・介護・子育てなど政治に結びつくものを踏まえて、連れ合いを説得し、家族の応援を得ながら、立候補するのが一番なのかなと思う。</p> <p>子育て・孫育てや親の介護、その他の家事は、まだまだ女性の仕事になっている。その日々の思い胸にを家族の理解・協力を得ながら、立候補して欲しいと願っている。</p>
	<p>「女性にも地域の推薦などがあれば、もっと多くの人が参加できるのではないか」という意見に対し、私は地域推薦という考えは適していないと思う。</p> <p>自治会加入率が減っている中で、議員は町内全部、町の予算決算、町で起きている事業施策等をしっかりと皆さんの対象として、地域推薦ではなく、各地域にこだわらないで出てきている。したがって、地域推薦は考えられない。</p>
加藤 章	<p>前回の選挙から、公職選挙法の一部改正があり、選挙運動用自動車の使用、選挙ビラの作成、選挙ポスターの作成を一定の金額を限度として、要した費用分だけを公費から支払うことができるようになった。（ただし、供託物没収点に達する得票を得られない場合は、公費負担の対象とならないが。）</p> <p>つまり、選挙運動に係る経費の負担をできるだけ軽減することにより、皆さんも選挙に立候補しやすくなったということ。</p> <p>女性議員が1人では、少ないので、ぜひ選挙に立候補していただければと思う。</p>